

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第35回 ミナミの国で、犬に噛まれる!

犬に噛まれてしまいました…。ここはミナミの国。何がおきても、不思議ではありません。

その日も、まだ朝暗いうちから気持ちよくジョギングに出発。ホテルから1キロほど離れたカンドー湖まで、ところどころコンクリートが割れた、がたがたの舗装道路を走り、湖を半周ほどするのがいつものルートです。雨季に突入したばかりですが、お天気もよく、カンドー湖に咲き乱れるきれいなハスの写真を、ご機嫌でパチパチ撮影した、その帰り道…。

ホテルまで、あと50メートルというところで、その事件はおきました。

ミャンマーは、おそらく昭和初期のころの日本も同じだったと思うのですが、家で飼われている犬と、野良犬の区別がさだかではありません。知り合いのミャンマー人の家にも、いつも玄関先で寝ている犬はいるのですが、どうやら飼ってるわけではなさそうなのです。公園に行っても、リードをつけて、犬を散歩している人なんて、見たことがありません。

そして、これが本当に怖いのですが、日本との最大の違いは、狂犬病の予防注射が普及していないことです。ミャンマー旅行に行くときの注意事項はいくつかありますが、生水を飲んではいけないのと同じレベルで、犬に近づいてはいけないという項目があるほど。

常宿にしているホテルの近くにも、いつもワンコが5～6匹たむろしています。普段はお互いに知らんぷりですれ違う間柄(?)で、怖い思いをしたことがなかったのですが、今朝は、20メートルぐらい先の路地から、いきなりこちらに向かって、突進してきました。

一瞬、引き返そうかどうしようか、悩んだのですが、ホテルが近いし、そのままやり過ごそうと思って、軽いジョギングのまま、目を合わせず、通り過ぎようとしたら…。

いきなり、後ろからガブッと…。Σ(●△●)
噛まれた瞬間は、「あ! やられた!」という感じ。怖かったのは、その後で、2匹目のワンコが、ガールと唸りながら、また向かってきたとき。さすがに、これはまずい…! と思ったら、近くにいたミャンマー人がわあーっと大声で追い払ってくれました。

あとで友人のミャンマー人から、「怖じ気づくと噛まれるんだよ。ゆったりと動いていれば大丈夫」と言われたのですが、正直、私のなかが彼らの気にさわったのか、わかりません。

いま考えると、通りすがりのミャンマー人は、命の恩人なのですが、そのときはお礼を言う余裕もなく、一目散にホテルに戻り、フロントのスタッフに「犬に

噛まれた!」と訴えました。病院に行きたいのですが、焦っているの、救急病院の電話番号が見つかりません。フロントのお姉さんは、「すぐそばに病院があるから、案内しましょう」と言ってくれますが、いやいや、ローカルの病院には行きたくない…。外国人向けの救急病院があるから、そこへ行きたい、電話をかけてと頼むと、

「病院の名前は?」
あ～、気が動転していて、病院の名前が出てきません…(涙)。

「そうだ、インヤ湖ホテルのとなりにある病院なの。」
という、お姉さんが、地図を探して、もってきてくれました。

そうそう、インターナショナルSOSクリニックだわ。ここに電話してください。

日曜日の朝7時という時間帯なので、つながらないかもしれないとドキドキしながらコールすると、ちゃんと当番の先生が出てくれました。犬に噛まれたという、すぐにきてくださいとのこと。いったん部屋に戻り、パスポートとお金だけ握りしめて、タクシーに飛び乗ります。

病院につくと、ドクターと看護師さんが待っていてくれて、まずはアレルギーの有無や既往症のチェック。めっちゃ親切な、(イケメン!)ドクターで、すぐに状況についてのヒアリング。ハウズドッグだったか、ストリートドッグだったかと聞かれ、ストリートドッグという、先生の顔が曇ります…。

「狂犬病の予防接種は終わっていますか?」
「前にやった…はずです…。」

「それは、いつですか? 1回じゃなく、3回注射しましたか?」

「……………」
「3回打ったか、打っていないかで、これから注射する内容が変わります」

「あの、あの。3回ワクチンを打っているのに、3回打ってない方の注射をしてもらったら、身体に悪いですか?」

「そんなことは、ありません(先生ニコリ)」
「それなら、ワクチンを打ってないバージョンの治療をしてください～」

あとで分かったのですが、予防注射をしていないと狂犬病に対する免疫がないので、噛まれてから24時間以内に、免疫力をつけるための血清を、傷口に接種しなければならぬのだそうです。日本は、狂犬病がほぼ減っているの、私が打ってもらったequirabという薬は手に入りません。狂犬病の多い(?)ミャンマーだからこそ、この血清を注射してもらえたようなのです。

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけでできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

WHOでは、血清と同時にワクチンの接種も推奨しています。ミャンマーで使ってくれたのは、verorabという強力なワクチンでした。これも後でわかったことですが、日本製のワクチンはものすごく弱いので、あまり効かないのだそうです。

傷の手当てと2本の注射が終わったところで、次に、イケメンドクターから、テタナスは受けているかと質問されました。えと、えと、テ、テ、テタナス?

私レベルの英語力だと、相手の言っていることが理解できないなんてことは、よくあること。たいていは、分かったふりして、にこにこしているのですが、今はそんな場合じゃない～!!!

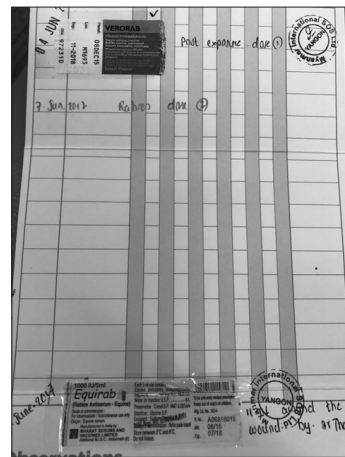
大げさでなく、生命がかかっている状況なので、私も必死です(^_^;

What is tetanus?

ドクターは、説明に困り、どうしようかという表情です。すると看護師さんが、医学書みたいな冊子を持ってきてくれました。開いたページには、tetanusの説明が…。難しそうな専門用語が並んでいますが、要するに土の中に生息するbacteriaだ、みたいなことが書いてあるではありませんか。これは、破傷風に違いない!

破傷風、受けています!と答えたら、また、「それはいつのことか?」と、重ねて質問するドクター。受けてから5年以内なら、注射する必要はないし、5年以上たっているなら、もう一度受けないといけないのだそうです。

えと、えと。
ベッドに寝ながら、指おり考えてみる。ミャンマー



に進出したのが、4年前だから、予防注射をしたのも、4年前かな…。

「4年前なら、破傷風の注射は必要ありませんね」と、イケメンドクター。

噛まれた傷自体は、そんなにひどくはなさそうだけど、出血しているし、野良ワンコの牙なので、どんな病原菌がついているかわかりません。

「やっぱり、破傷風の注射も打ってください!」とすがる様に、頼んでみる。

「4年前に打っているなら、必要ありませんよ」と再度、イケメンドクター。

「でも、4年と10カ月ぐらい前かもしれません…」

「じゃあ、念のために破傷風も打っておこうか」あははと、先生は優しく笑って、もう1本、注射をしてくれました。

それから、日本に帰国後の狂犬病ワクチンの接種スケジュールの説明をうけ、「あなたの国のドクターに見せてください」と、丁寧なカルテを作ってもらい、ホテルに戻ったころは、すっかり気持ちも落ち着いていました。

狂犬病は、発症すると100%死亡する怖い病気だということ、今回はじめて知りました。そもそも狂犬病という病名は、犬に特有の病気だから、というわけではありません。狂った犬のような形相になるほど苦しんで死ぬので、狂犬病というのだそうです。あらゆる哺乳動物が感染している可能性があり、アメリカやヨーロッパ各国を含む世界中の国で、いまでも発症している、怖い感染症なのです。

今回、私はとても幸運でした。親切な通りすがりのミャンマー人が助けてくれたこと。日曜日の早朝なのに、クリニックが対応してくれたこと。優秀で優しいドクターに診てもらえたこと。狂犬病の不安と、傷の痛みでオロオロしていた私にフェイスブックを通じて、たくさんの方から励ましのメッセージもいただきました。この場を借りて、お礼を申し上げます。おかげさまで、日本一狂犬病に詳しい税理士になりました。もし犬に噛まれて、狂犬病が不安という人がいたら、今度は私が親切にお答えしたいと思います。←そんな人いないか(笑)

好評発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著 (中経出版)

1,300円+税

アタマのいい人と勉強できる人は違います。勉強できる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。がんばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指たくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

合格率10%以下の難関資格に、ストレートで合格した驚異的なメンツ!公開!